

# 鈴木信雄先生ご退職記念号に寄せて

経済学部長 酒井重喜

鈴木信雄先生は、2010年(平成22年)3月に熊本学園大学をご退職になりました。先生は1990年(平成2年)4月に経済学部経済学科助教授として本学に赴任されました。経済学部第2の学科である国際経済学科が開設されたのと同じご赴任でした。本誌『経済論集』の前号(第17巻第1・2合併号)が国際経済学科開設20周年記念であったのに続き、本号は鈴木先生の退職記念号として編まれることになりました。20年前の本学は未だ熊本商科大学であり熊本学園大学となったのは1994年(平成6年)でした。それを思うと先生の御勤続の長さが思い知らされます。本当に長い間経済学部の発展のために研究・教育・行政の各方面でご尽力を賜りました。ここに深く感謝の意を表したいと思います。

鈴木先生は、1964年(昭和39年)に早稲田大学第1部理工学部経営学科をご卒業後、日本通運株式会社に入社され本学に赴任されるまで26年間同社でお仕事をなさっていました。理系学部出身でしかも一般企業でお勤めになった経歴を持っておられる点で経済学部では異色の存在でした。日通時代には、情報化施策や各種システム開発に従事され、さらに日通以外の企業や中央官庁の情報化に関するコンサルタントや調査研究などにも携わられました。その成果を踏まえて、本学経済学部とりわけ経済学科における情報教育に心血を注がれ、1993年(平成5年)には経済学科の学生全員にノート・パソコンを必携させネットワークによる課題送信という画期的な情報教育を導入されました。その間情報教育推進会議議長や情報教育センター長のお仕事もして頂きました。先生の情報分野の学識と識見は学外者の見逃すところではなく、情報文化学会評議員・日本物流学会理事、さらにNTTの在り方を語る懇談会会長・熊本県トラック協会物流対策委員会委員長などに請われ学界と地域社会に大きな貢献をなさいました。社会の情報化と連動して大学における情報教育も今後止まることなく発展させていかなければなりません。先生の残された遺産を継承発展させることが我々の責務であることを幾度も再認識するとともに、先生にはご退職後も我々を叱咤激励しご助言を賜りますようお願いする次第です。

私事に渡りますが、鈴木先生と私は、研究室が本館5階でお隣さんでした。20年近くお隣さんであって、廊下ではしょっちゅうお目にかかっていました。ただ、いつも軽くお辞儀するだけで、お話しすることは滅多にありませんでした。それでもご専門のコンピューターについ

てお伺いしたこともあり、スカイプについてお訊きしたときなどは熱心に教えて頂き恐縮したことが思い出されます。

鈴木先生は物静かな方で、教授会でも委員会報告など避けられない場合を除いてほとんど発言されませんでした。その点は私も同じですが、私の場合はたんに発言しないというだけで、鈴木先生の「物静か」は全く別物でした。昨年8月に、偶然が重なって私が学部長をお引き受けすることになり、教授会の司会進行を任されることになりました。毎回青息吐息の状態が続いていますが、たまにフロアーの出席者を見渡すゆとりを持つこともあります。そんな時、会議室右手前方（議長席からは左手近く）の鈴木先生の不在にふと気づき、「この不在は欠席ではなく退職によるのだ」とあらためてさみしい思いをいたしました。先生の今後のご健勝を心よりお祈りするばかりです。

最後に、本記念号に寄稿して頂いた先生方、そして編集に携わって頂きました伊東教授をはじめ編集委員の方々にお礼申し上げます。

2011年2月21日